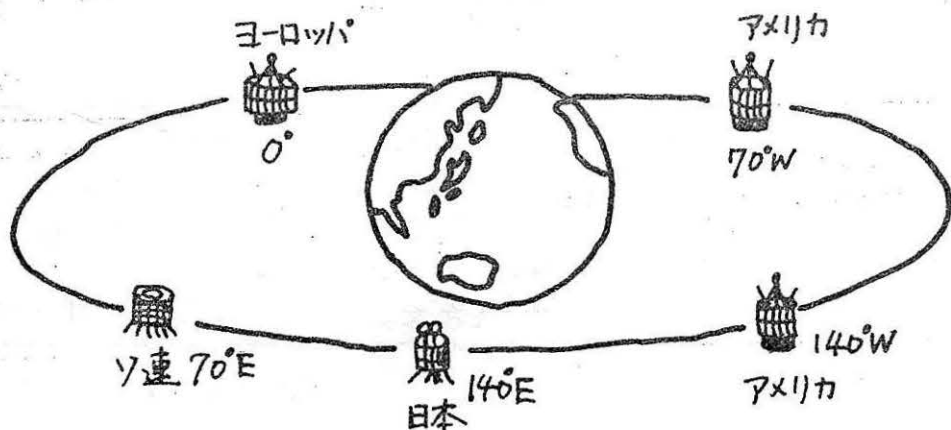


ひまわり

科学文化センターの1階レファレンス室の前に衛星写真ファクシミリ受信機があります。この受信機は、毎日午後2時ごろになると日本とその周辺の「ひまわり」衛星写真を気象庁から受信しています。今回は、この「ひまわり」についてお話し致しましょう。

日本の天気を予報するには、日本をとりまく広い地方の気象のようすと、その刻々の変化を知る必要があります。このひまわりが誕生する以前から、各地の气象台、定点観測船、富士山の800kmレーダーなどによる観測から天気の予報が行なわれていました。しかしこの観測も陸地にかたよりがちなで、広大な海をカバーすることは困難でした。

このような時、国連の世界気象機関(WMO)で、地球を気象衛星の目でおおう世界気象監視計画が作られ、静止衛星を5個(日本1個、アメリカ2個、ソ連1個、ヨーロッパ1個)打ちあげること



になりました。静止衛星というのは、地球に対していつも同じ位置にある、つまり24時間で1周する衛星のことです。決して空中で静止している衛星のことではありません。

そして、1977年7月14日、アメリカのケープカナベラル発射場から、ひまわりをのせたロケットが打ちあげられ、東京の真南、東経140度の赤道上空5800kmの静止軌道に乗りました。

このひまわりは、安定を保つために、自分自身で1分間に100回転していますが、この回転を利用して地球の表面を走査して映像を作っています。ちょうどテレビで画面をつくる方法と似ていますがこの映像を作る機械は走査放射計と呼ばれています。

ひまわりには他に赤外線を使って地球を見る装置もあります。赤外線では暖さの度合いを知ることができます。このため、地上や海面の温度のようす、雲の上の部分の温度などを知ることができます。

ひまわりの仕事は、今述べたような地球の写真撮影や、気象データの収集ばかりでなく、宇宙の陽子、 α 粒子、電子の数を観測してそのデータを送ってきたりもします。

朝や夜の天気予報ですっかりおなじみになった「ひまわり」。これからますます貴重な気象の情報を届けてくれることでしょう。

(H.Y)

富山市科学文化センター

〒930-11 富山市西中野町3丁目1番19号

TEL 富山 (0764) 91-2123

○付属天文台

富山市五福8番地

○開館 午前9:00～午後4:30

最終プラネタリウム3:40より投映

○入館料 大人200円 小人100円

○休館日 月曜日・祝日

☎ (0764) 32-3334 (ただし5月5日と11月3日は開館)

昭和55年10月1日発行